

作品リスト List of Works

近年の急速なデジタル技術の進展により、私たちの生活は驚くほど便利になり、自分が移動することなく、希望のものを手に入れることができるようになりました。「なるべくなら出掛けることなく、様々なものを手に入れたい」という欲求を持つ人が多いにもかかわらず、旅に出ないことや、外に出掛けないことについては、今でも否定的にとらえられ、外に出ようとする若者に対し「広い世界へ旅に出れば、知らなかったものに出会い、驚くような発見がある」と助言する人を見かけることもあります。

では、旅に出なければ、あるいは普段生活している範囲内や家の中にいるだけでは、何も見ていない、または、何も発見できないのでしょうか？世界中の風景がインターネット上に溢れている現代、実はごく身近にこそ、誰も見ていないものがあるとはいえないでしょうか。

本展はごく身近なところに意識を向けて作品を制作している6人の作家——藤安淳、井上佐由紀、齋藤陽道、相川勝、濱田祐史、八木良太——の作品を通して、鑑賞者のみなさまに身近にあるささやかな気づきの楽しさをご紹介します。

凡例

- ・作品のデータは、作品番号、作品名、シリーズ名、制作年、素材・技法、イメージサイズ（縦×横×奥行mm）の順に掲載した。
- ・作品はすべて作家蔵。

Notes

- ・Data in the list of works is presented in the following order: work number, work title, series title, year produced, material/ medium/ technique, image size (H.xW.xD.mm).
- ・All works belong to the artist.

至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16

Close-up Universes: Contemporary Japanese Photography vol.16

2019年11月30日(土) — 2020年1月26日(日) 東京都写真美術館2階展示室
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞
助成：芸術文化振興基金 協賛：凸版印刷株式会社

- ▶ 双子をテーマにして撮影した写真です。
それぞれどんな人たちで、どんな暮らしをしているのか、写真を手がかりに考えてみて下さい。
- ▶ 2枚1組になっているものと、1枚だけのものがあります。
何が違うのでしょうか？

双子は過去にも写真家たちのモチーフとなることがありますが、藤安の作品にはそれらとの決定的な違いがあります。ひとつは過去の写真家が1枚の写真に2人並んで撮影しているのに対し、藤安は双子を1人ずつ別々に撮影すること。もう一つは、撮影者自身が双子だということです。双子の兄としてこの世に生まれた藤安にとって、双子であることは決して逃れるこ

とのできないアイデンティティなのです。このシリーズは、左に兄／姉、右に弟／妹を並べて展示します。ペアのいない写真は、様々な理由でもうひとりを撮影することができなかったものです。そのような場合は、撮影できなかった側に写真1枚分の空間を開けて展示しています。

1	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600	6	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 (set of 2)	11	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 600 × 745 (set of 2)
2	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 600 × 745 / 745 × 600 (set of 2)	7	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 (set of 2)	12	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 600 × 745
3	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 / 600 × 745 (set of 2)	8	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 (Set of 2)	13	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 (set of 2)
4	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 / 600 × 745 (set of 2)	9	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 (set of 2)	14	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 745 × 600 (set of 2)
5	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 600 × 745	10	<empathize> より From the series <i>empathize</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 600 × 745 (set of 2)		

- ▶ この作品は赤ちゃんが生まれて初めて目を開いた時の瞳を撮影しています。
それぞれどんな様子でしょうか？
- ▶ 小さな写真はその時に撮影したフィルムのインデックスプリントです。流れを追って見てみましょう。
何か気づくことがありますか？

井上は、2012年からこれまで、生まれたばかりの新生児の瞳を撮影しています。妊婦の出産がいよいよとなったときに産院から連絡を受けて井上が駆けつけ、生まれてすぐの新生児を、5分程度撮影します。初めてこの現場に立ち会ったとき、井上は畏れのような感覚と、また同時に目が開いたばかりで

何も見えていない状態から「生きるために焦点を必死に合わせようとしている様子」をみて綺麗だと感じたといいます。井上はこれまで「恐れ、畏れ、怖れ」をテーマに、一貫して人間の力の及ばない大きな自然の力への畏怖に惹きつけられているような作品を制作しています。

15 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2011/2018
発色現像方式印画
Chromogenic Print
229 × 343

20 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2014/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1500 × 1000 (set of 4)

16 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2014/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1000 × 1500 (set of 2)

21 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2015/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1000 × 1500

17 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2014/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1000 × 1500 (set of 2)

22 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2018/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1500 × 1000

18 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2014/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1000 × 1500

23 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2014-2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
305 × 254 (set of 20)

19 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2014/2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
1000 × 1500

24 <私は初めてみた光を覚えていない>より
From the series *I can't recall my first light.*
2018
写真集
Photo Album
280 × 420 × 60

- ▶ 作品を1点、1点、じっくり見てみましょう。
何か気になるものはありますか？
- ▶ 121枚の写真が一つの壁に集まっている作品を見てみましょう。
全くちがうものが写っているけれども、お互いに似ているものはありますか？

齋藤が撮影するのは、暮らしの中で身の回りに起きていることや、見知った人々です。壁一つにぎゅっと集まっている写真は、齋藤の最初の写真集『感動』の全点です。そこに写っているのは、人、動物、街、海、雪など様々ですが、一見、何の関係性もないものの間に、似た部分や共通点が見えてきます。また、本展のメインイメージでもある《星の情景》(作品番号34)

は、生まれて間もない齋藤の子供が寝ている光景を写したものです。部屋に差し込んだ朝の光が、宙を舞う埃を星のようにきらきらと輝かせています。とりとめなく流れていく日常の朝の一場面のなかに、ささやかで特別なにかを齋藤は見つけます。それは、時間の流れの中に静かに眠っているような瞬間でもあります。

<p>25 《神話 # 3 (光のなかの母子)》 <i>The myth #3</i> (<i>Mother and Child in the Light</i>) 〈神話〉より From the series <i>The myth</i> 2016 発色現像方式印画 Chromogenic Print 1370 × 1030</p>	<p>29 《神話 # 2 (地平線を歩く人々)》 <i>The myth #2</i> (<i>People Walking on the Horizon</i>) 〈神話〉より From the series <i>The myth</i> 2017 発色現像方式印画 Chromogenic Print 1030 × 1300</p>	<p>33 《光をはらむシャボン玉》 <i>A Bubble Filled with Light</i> 〈せかいさがし〉より From the series <i>Exploring the world</i> 2013 発色現像方式印画 Chromogenic Print 1030 × 1300</p>
<p>26 《星をはらむバイク》 <i>A Bike Filled with Stars</i> 〈せかいさがし〉より From the series <i>Exploring the world</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 1030 × 1300</p>	<p>30 《神話 # 1 (大きな岩と子供)》 <i>The myth #1 (Large Rock and Child)</i> 〈神話〉より From the series <i>The myth</i> 2017 発色現像方式印画 Chromogenic Print 2400 × 1800</p>	<p>34 《星の情景》 <i>View of a Star</i> 〈せかいさがし〉より From the series <i>Exploring the world</i> 2019 発色現像方式印画 Chromogenic Print 1200 × 1800</p>
<p>27 《鹿の人》 <i>Deer Woman</i> 〈せかいさがし〉より From the series <i>Exploring the world</i> 2018 発色現像方式印画 Chromogenic Print 1030 × 1300</p>	<p>31 《少女》 <i>Girl</i> 〈絶対〉より From the series <i>Absolutely</i> 2016 発色現像方式印画 Chromogenic Print 490 × 590</p>	<p>35 〈感動〉 <i>KANDO</i> 2011 発色現像方式印画 Chromogenic Print 可変 / Variable (set of 121)</p>
<p>28 《カスミソウ》 <i>Baby's Breath</i> 〈せかいさがし〉より From the series <i>Exploring the world</i> 2012 発色現像方式印画 Chromogenic Print 728 × 920</p>	<p>32 《ふたり》 <i>Couple</i> 〈絶対〉より From the series <i>Absolutely</i> 2014 発色現像方式印画 Chromogenic Print 490 × 590</p>	

- ▶ 64枚のポートレート写真を見てみましょう。
あなたの知っている誰かと似た人はいませんか？
- ▶ 部屋の中央の床に置かれた写真は天井からつるされたフレームの中にあるものの影を写し取っています。
どれがどんなふうに写っているのかじっくり見てみましょう。

相川は制作のために自身で何かを撮影することはありません。プロジェクターやタブレット端末の液晶画面の光を光源として写真を撮ります。64枚のポートレートは、AI(人工知能)がランダムに作り出した架空の人物の姿です。タブレット端末にAIのポートレートを映し出し、それを印画紙に密着させて写真を撮ります。作品の人物の額にある数字は、作家が印画紙に焼き付けを行った時間が写ったものです。また、《cloth,

container, hose, plastic bottle》(作品番号44)は、ペットボトルやビニールホースなど、一見、捨てられてしまいそうなプラスチック製品などの影を写し取ったものです。画像編集ソフトPhotoshopの画面上で、データがない状態を表す格子状の模様を投影したプロジェクターの光をその光源に用いることで、引き伸ばし機では行えない表現を取り入れているのです。

-
- 36-42 <landscape> より
From the series *landscape*
2019
木製パネルにゼラチン・シルバー・プリント
Gelatin Silver Print on Wood Panel
497.8 × 883.9 × 24
- 43 <#selfy> より
From the series *#selfy*
2019
ゼラチンシルバープリント
Gelatin Silver Print
145 × 96 (set of 64)
- 44 *cloth, container, hose, plastic bottle*
2019
木製パネルにゼラチン・シルバー・プリント
Gelatin Silver Print on Wood Panel
870 × 1555 × 24
- 45-49 <layer (photoshop and dragged smartphone)> より
From the series
layer (photoshop and dragged smartphone)
2019
ゼラチン・シルバー・プリント
Gelatin Silver Print
508 × 610

- ▶ たくさんの風景写真。あわせて30枚あります。
何が写っているのか、それぞれどんなものが写っているのかなど、じっくり見てみましょう。
- ▶ 赤茶色の画面に白い筋がいくつも写っています。
この作品からどんな印象を受けましたか？

〈Primal mountain〉シリーズ(作品番号50)は、一見、アルプスかどこかの高峰を撮影した写真に思えますが、実はアルミ箔を素材として架空の山の形を手作りし、それを屋外で空をバックに撮影したものです。写真にすることによって実際のスケール感がわからなくなるので、そこに写るものを数千メートルある大きな山と見る人もいれば、手のひらサイズの作り物と見る人もいるでしょう。また、〈Watermark〉(作品番号51-58)シリーズ

は、東京湾の海水を用いて手作りした印画紙に、しわを寄せた食品用ラップを直接載せて太陽光で露光したフォトグラムです。透明なラップはしわの寄った部分だけが影となって印画紙に白く写っています。そのしわを海の波の影だと見る人もいるかもしれませんが。作家はこれらの作品から、見えているものの認識の多様さを確かめようとしているのでしょう。

50 〈Primal Mountain〉より
From the series *Primal Mountain*
2011-2019
発色現像方式印画
Chromogenic Print
265 × 330 (set of 30)

51-58 〈Watermark〉より
From the series *Watermark*
2019
単塩紙
Salted Paper Print
310 × 408

59 《wall #01》
wall #01
〈Watermark〉より
From the series *Watermark*
2019
単塩紙
Salted Paper Print
1520 × 2200

60 《wall #2》
wall #2
〈Watermark〉より
From the series *Watermark*
2019
単塩紙
Salted Paper Print
1520 × 2200

- ▶ この展示室にある作品はどれも、見方を工夫すると急に見え方が変わる仕掛けになっています。それぞれどんなふうに見えますか？
- ▶ 時計の文字盤がかかれたものは、「驚き盤」という19世紀のアニメーションの装置です。ある見方をすると盤に描かれたものが動いて見えます。試してみましょう。

〈Time Resonance〉(作品番号75)と〈Resonance of Perspective〉(作品番号69、70)は、パンチングメタルという、工業製品などに使われている穴の開いた金属板でできています。円形のものには回転するうちに2枚の重なりかたが変化すると、穴が大きく見えたり小さく見えたりします。八木は身の回りの見慣れたものを、固定観念により用途や役割が決まらせてしまっていることから解放し、改めてその「もの」の特徴的な性格を抽出し、肩の力がふっと抜けるような驚きと発見をもたら

ます。〈On the Retina〉(作品番号72-74)のモチーフとなる色覚検査表も、一つの固定観念により用途や役割を決めつけられがちですが、色覚検査表の「もの」としての特徴的な性格を使って、「見える／見えない」ということの不確かさと「共感」という幻想について、鑑賞者に気づきと再考を促します。ほかに、展示室の中央の四角い鏡(作品番号69)は左右の壁の模様を立体的に見ることができたりと、八木の作品はどれも、鑑賞者が意識して見ることによって見え方が変わります。

61	〈Animated Clock〉より From the series <i>Animated Clock</i> 2013 驚き盤、時計の文字盤 Phenakistiscope, Clock Dials 365 × 258 × 44	66	<i>The Spinning Dancer (Sculpture)</i> 〈The Spinning Dancer〉より From the series <i>The Spinning Dancer</i> 2017 3Dプリント、モーター 3D Print, Motor	72-74	<i>On the Retina (E1), (Y), (E2)</i> 〈On the Retina〉より From the series <i>On the Retina</i> 2019 発色現像方式印画 Chromogenic Print 各590 × 590 × 30 (set of 3)
62	〈Animated Clock〉より From the series <i>Animated Clock</i> 2013 驚き盤、時計の文字盤 Phenakistiscope, Clock Dials 355 × 238 × 44	67-68	<i>The Spinning Dancer (Shadow)</i> 〈The Spinning Dancer〉より From the series <i>The Spinning Dancer</i> 2018 サイアノタイプ Cyanotype 352 × 322 × 30	75	《Time Resonance》 <i>Time Resonance</i> 2019 パンチングメタル、モーター Perforated Metal, Motor 980 × 980
63	〈Animated Clock〉より From the series <i>Animated Clock</i> 2013 驚き盤、時計の文字盤 Phenakistiscope, Clock Dials 345 × 218 × 44	69	《Resonance of Perspective》 <i>Resonance of Perspective</i> 2019 パンチングメタル、フレーム Perforated Metal, Frame 2000 × 1000 × 1000		
64	〈Animated Clock〉より From the series <i>Animated Clock</i> 2013 驚き盤、時計の文字盤 Phenakistiscope, Clock Dials 325 × 178 × 44	70	《Resonance of Perspective》 <i>Resonance of Perspective</i> 2019 パンチングメタル、フレーム Perforated Metal, Frame 1200 × 400 × 400		
65	<i>Regenbogen</i> 2006 ガラスにシルクスクリーン Silkscreen on Glass 389 × 1644 × 220	71	《Stereo Cube》 <i>Stereo Cube</i> 2019 ミラー Mirror 150 × 150 × 150		

至近距離の宇宙 日本の新進作家 vol.16 作品リスト

2019年11月発行 執筆：武内厚子（東京都写真美術館） デザイン：大島依提亜
東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
www.topmuseum.jp

©Tokyo Photographic Art Museum, November, 2019

TOP MUSEUM